



復元本「月次祭礼図屏風」

月次祭礼図屏風・浜松図屏風復元プロジェクト

よみがえる中世屏風

—京洛の祝祭、白砂青松の海—

2024年1月6日(土) > 2月9日(金)

休館日 日曜・祝日、1月27日(土) | **開館時間**: 10:00~17:00
(入館は16:30まで)

入館料 無料

会場 京都工芸繊維大学美術工芸資料館1F

主催: 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
企画 / 共催: 愛知県立芸術大学文化財
保存修復研究所



京都工芸繊維大学
美術工芸資料館
京都工芸繊維大学
MUSEUM AND ARCHIVES

シンポジウム「中世やまと絵屏風を技法と主題から読み解く」

日時 1月6日(土) 13:00~17:00(開場12:30)
※当日受付、先着120名

ワークショップ「雲母地の技法」 / 「型摺りの技法」

日時 1月23日(火) ①「雲母地の技法」10:00~12:00
②「型刷りの技法」14:00~16:00
※各回要事前予約、各回先着20名



復元本「石山寺縁起絵巻画中西浜松図屏風」

よみがえる中世屏風

—京洛の祝祭、白砂青松の海—

やまと絵の屏風で中世にさかのぼる作例は少なく、制作年代や絵師が明らかなものはほとんど遺されていません。その技法や主題の特徴を明らかにするため、愛知県立芸術大学の日本画古典実技の専門家を中心に、日本史や美術史の研究者と共同で復元プロジェクトを進めています。

復元作業の大きなヒントになるのが、近世に写された模本と中世絵巻の中に描かれた画中画の屏風絵です。2015年からは、「月次祭礼図屏風模本」(東京国立博物館蔵)の復元に取り組みました。江戸時代に写された模本からは、失われた中世の原本の図様を読み取ることができ、応仁の乱以前の京都の風俗を描いた唯一の大画面として貴重です。ただし、模本の彩色は不完全で、もとの絵画の全容は明確ではありませんでした。今回、模本の描写を精密に模写するとともに、日本史・美術史の両面から祭礼・風俗描写の特質や当時のやまと絵様式の分析を進め、これらを統合して室町時代盛期における京都の繁栄を屏風に復元しました。

2018年から開始したのは、室町時代の「石山寺縁起絵巻」(石山寺蔵)第五巻の中に描かれた、雲母地の画中画「浜松図屏風」の復元です。中世のやまと絵屏風には、金銀箔の小片を撒きつぶした「みがきつけ」や、下地に雲母を厚く塗布する「雲母地」など、特徴的な技法が用いられました。これらは、近世以降の屏風ではほとんど使用されていない幻の技法です。この画中画は、雲母地屏風の実態を伝えるものとして重要であるだけでなく、中世に最も流布した白砂青松の浜辺を描く「浜松図」としても注目されます。小さな画中画を、原寸大の屏風の大画面に復元することで、室町時代の技法と画題の双方を再検証しています。

本展覧会では復元された「月次祭礼図屏風」「浜松図屏風」を中心に、その過程で制作された下図類、「みがきつけ」や「雲母地」技法の試作品、画材や道具などを展示します。

シンポジウム「中世やまと絵屏風を技法と主題から読み解く」

日時	1月6日(土)13:00~17:00(開場12:30)
会場	京都工芸繊維大学60周年記念館1階記念ホール
定員	定員120名(※当日受付)
開会挨拶	並木誠士(京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長)

第一部「月次祭礼図模本」の復元(13:10~14:40)

「模本から読み取る技法と表現」

阪野智啓・岩永てるみ(愛知県立芸術大学准教授)
安井彩子(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)
「月次祭礼図屏風」に描かれた幕府と政治的な事柄
小島道裕(愛知県立芸術大学非常勤講師)
「歴史史料から考える描かれた祭礼」
河内将芳(奈良大学教授)

第二部「石山寺縁起絵巻」画中屏風の復元(14:55~15:55)

「絵巻に描かれた雲母地屏風と裂地の再現」

阪野智啓(愛知県立芸術大学准教授)
中神敬子(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)
「絵巻の画中画からひろがる中世屏風の世界」
高岸輝(東京大学教授)
座談会/司会進行:井戸美里(京都工芸繊維大学准教授)

ワークショップ(愛知県立芸術大学連携リカレント講座)

- ①「雲母地の技法」講師:阪野智啓(愛知県立芸術大学准教授)
 - ②「型摺りの技法」講師:中神敬子(愛知県立芸術大学研究員)
- 日時 1月23日(火)、①「雲母地の技法」10:00~12:00
②「型摺りの技法」14:00~16:00

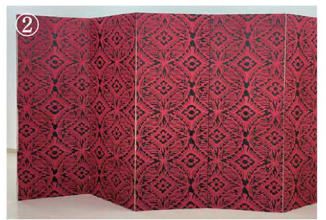
会場 京都工芸繊維大学プラザKIT (Sky PLAZA KIT) 定員 各回20名

参加費 無料(※各回別で要事前予約)

申し込み QRコードか、あるいは資料館HP (<https://www.museum.kit.ac.jp/>)の専用フォームから申し込みください。1月14日まで(各回先着20名で随時締切)



「雲母地の技法」では屏風絵復元で用いた雲母地の再現技法、「型摺りの技法」では屏風裂地復元で用いた文様型摺りの技法をそれぞれ体験していただきます。両方の受講も可。



1:復元本「月次祭礼図屏風」六扇部分 2:復元本「石山寺縁起絵巻」画中画「浜松図屏風」裏地 3:「四季花木図屏風」技法試作 4:旧里見家本「浜松図屏風」技法試作 5:雲母地

お問合せ 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
〒606 8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町
Tel: 075-724-7924 | E-mail: shiryokan@jim.kit.ac.jp
URL: www.museum.kit.ac.jp/

アクセス 市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車1 番出口から徒歩約8 分
京都バス「高野泉町」下車、西へ徒歩約10 分
叡山電車「修学院駅」下車、西へ徒歩約15 分



科研費 本研究は、JSPS 科研費JP22H00628 「中世やまと絵屏風の技法復元を中心とする総合的研究」(阪野智啓)・JP22K00212 「中世大画面祭礼図の構図法の研究—月次祭礼図屏風模本の失われた左隻の推定を中心に—」(岩永てるみ)の助成を受けたものです